

～ 平成 22 年度 海外交流研修参加報告 ～

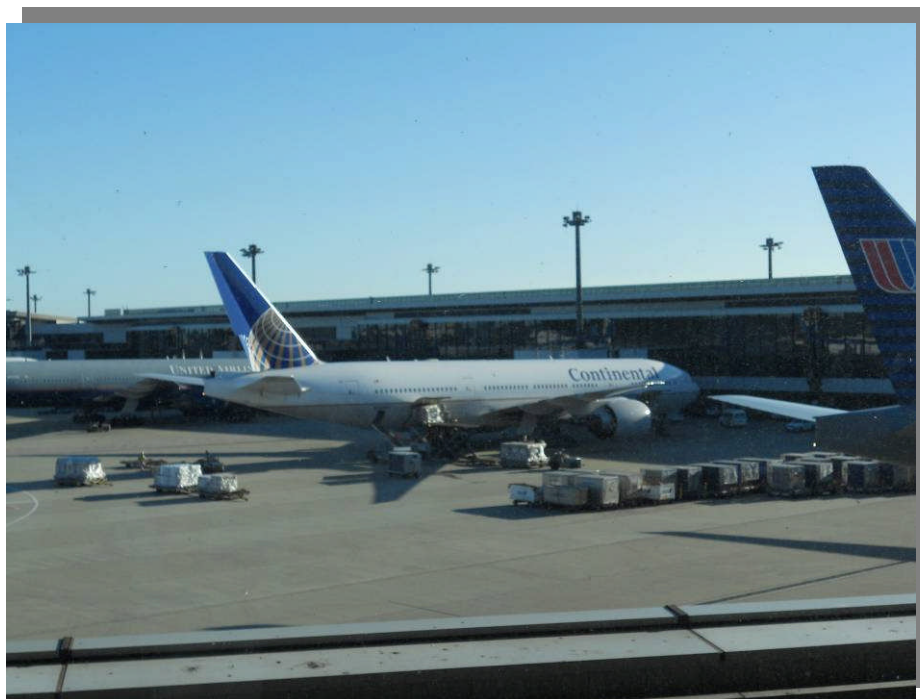
中 野 英（企業後継者）

まず、このお話を頂いた時に真っ先考えたことが、仕事を 11 日間休むことへ不安でした。しかし今この研修を終えて思うことは、私自身の性格的なものかもしれませんが、仕事を第一に考え自分自身のスキルアップのチャンスであり、なかなか経験できないこの研修を躊躇してしまうあたりが日本人らしいのかなとも思います。この研修の趣旨目的にある『国際理解とグローバルな国際的視野に立つ人材を育成すること～』に繋がることなのかなとも思えます。

せっかくこの様なチャンスを与えて貰ったのだから、自分から行動しなければと思い、上司に相談し、参加申し込みの書類を提出しました。

もちろん家族やまわりの方の理解や協力、後押しもあり参加できたということは言うまでもありません。（迷惑もかけたでしょうが...）

参加が決まってからは今度は別の不安がいろいろとわいてきました（笑）正直この年齢になってからのホームステイという体験への抵抗や不安、これもなかったかと言えば嘘になります。それとなんといっても一番の問題は英語がまるで話せないということです。それだけでなく人見知りな方なのにコミュニケーションが取れるのか？ホームステイ生活をおくる事が出来るのか？不安は深まるばかりでした。



【出発】

いざ当日出発となり函館空港より移動すること 13 時間後、ニューアーク空港へ到着しました。長時間の移動がアメリカ本土との距離をあらためて感じさせられました。その後ボストン空港に移動し現地の時間で午後 9 時頃にカーライル高校へ到着、そこでこれから約 1 週間お世話になるホストファミリーの方々に温かく迎えられました。私は同じ町民代表の菅原さんと一緒のお宅にお世話になると聞いていたので多少気持ちが楽でしたが、それでもやはり緊張の対面となりました。



ホストファミリーのナンシーさんに迎えられ、事前の研修にて学んだ簡単な挨拶をカタコトですると、なんとか通じたようで、緊張で固まっていた自分の表情に初めて笑顔が出た気がしました。ナンシーさんは辞書を見ながら日本語をまじえ『コンコードで生活する間は、ここは自分の家で、私を母親だと思って生活して欲しい』と言われた時はとても感動しました。そうしているうちに会議に出席さ

れていたジャックさんも帰宅しビールを御馳走になりながら、知っている数少ない単語をつなげ、何とか自己紹介や家族の紹介などコミュニケーションを取り、明日から始まる研修に期待に胸を膨らませてその日は休みました。

【1日目】

タウンハウスの表敬訪問に向かう車の中から見初めてのアメリカの風景に感動しながらまず思ったことが家や庭、敷地の大きさです。出発前に聞いていたとおりコンコードは比較的所得の高い方が多い町というのを改めて感じました。タウンマネージャーとの懇談の後はカーライル高校の見学、オーチャードハウスの見学と、コンコードの教育現場と歴史にふれ、初日からとても充実した研修を過ごせることが出来ました。

その日の夜はトムさんのお宅で行われたホームパーティーに出席しコンコードに住まれている日本人の方々にもお会いし、いろいろな楽しいお話を聞かせて貰いました。

そしてその時にコンコードで建築関係の音響・情報・通信の仕事をしている、古谷^{ふるたに}謙^{けん}さんという方を紹介してもらい、4日目の克蘭ベリー畑の見学の時に、私だけ別行動で、見

学者としてまるっきりお客さんとしては扱えないが建築現場の見学(手伝い)に来ないかとお誘いを受けたのです。

研修参加時の見学希望場所のアンケートの項に『アメリカの建築現場』と記入していた私は2つ返事でOKしました

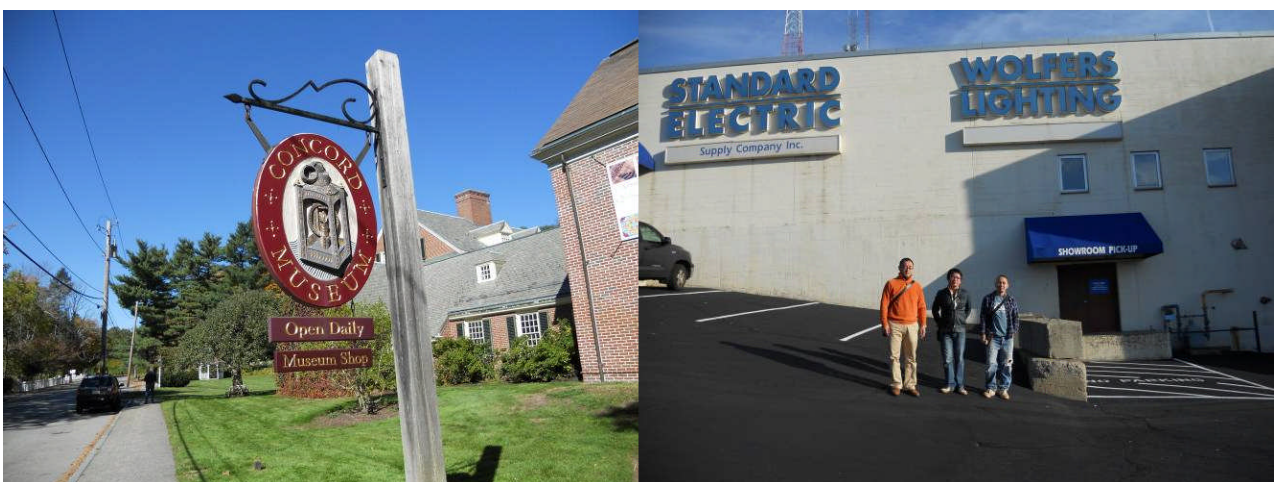
その後もお寿司など美味しい日本料理も御馳走になり、あまりの楽しい時間の為か(自分のせいか)次の日はちょっとHangover(意味は調べて下さい)だったことは、ここだけの話に…。

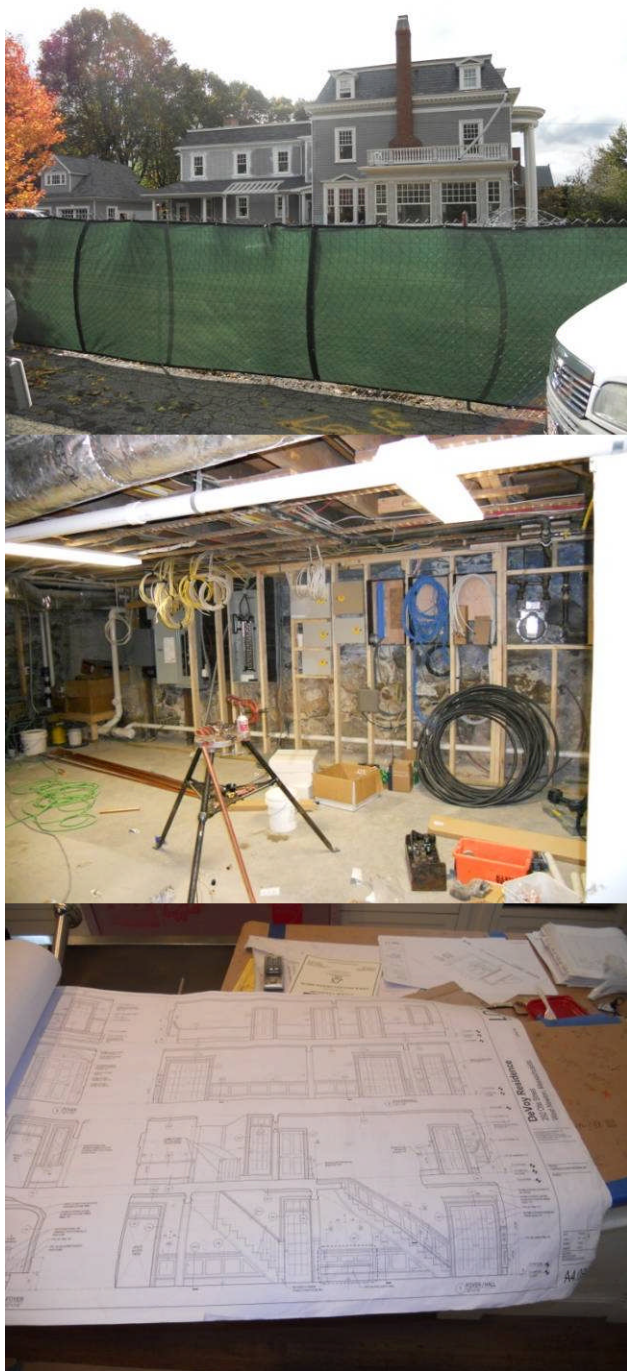
【2日目、3日目】

素晴らしい天候に恵まれコンコードの自然や歴史、美術施設の訪問。またボストンの照明のショールームや大型ショッピングセンターの見学など、観光旅行ではなかなか見学できない場所にも連れて行って頂きました。

お世話になっているジャックさんのお宅やパーティーに招かれたトムさんのお宅に伺ったときにも思ったことですが、アメリカの一般の家庭の照明は、天井に付く照明がほとんどなく、壁に付けるブラケット照明やスタンドライトが主照明になっていました。ショールームでもブラケットの品揃えが充実しており、日本のショールームやカタログでは見たことのないようなデザインのものがたくさんありました。

またそのほとんどが白熱電球を使っているようです。現地の日本人の方によると電気料金は日本と比べると半分弱くらいとかなり安価だそうで、そのためまだ省エネに対する意識が薄く、日本では流行りつつあるLEDの照明や電球などは高価なため、まだあまり出回っていないそうです。





【4日目】

古谷さんに迎えに来て頂き、コンコードより南東のニュートンという街の住宅の増築現場と、ウィンチェスターという街にある新築の現場の見学（お手伝い）させていただきました。ちなみにアメリカでは現場のことを『サイト』というそうです。

ニュートンのサイトでは現場監督にあたるゼネラルマネージャーのラルフさん、ウィンチェスターのサイトではジェフさんを紹介され、日本で電気工事士（Electrician）の仕事をしていることを自己紹介し、サイトの内容を説明して頂きました。

アメリカの木造住宅のサイトでしたが、その規模はとても大きく、特にウィンチェスターのサイトは建坪数でいうと200～300坪はあり、地下1階地上3階建てで部屋数はゆうに20室はある大豪邸でした。あまりにも現実離れたスケールにアメリカの富裕層の生活レベルの違いを感じさせられました。

配電線からの供給方法や電線の規格など、いろいろ教えていただきましたが、多少の違いはあるものの、現場内の作業の内容や工法、工具などはさほど日本との違いはありませんでした。建具や仕上げ材、暖炉など、アメリカ

独特のものも多くとても興味深く見学（お手伝い）出来ました。サイトの工期は1年半と日本での現場と比べるとかなり長期となっており現場内の雰囲気はなにかのんびりしているという印象を受けました。

またアメリカはこの時期はまだサマータイムとなっており作業時間も朝7時から15時位までと、4時にはサイトには誰もいなくなっていました。基本的には日曜祭日は勿論、土曜も休みのサイトがほとんどだそうです（日本では考えられない！）。

アメリカでも最近は工事価格が下落しており、業者間ダンピングも激しいとのことをお話を古谷さ

んから聞かされていましたが、まだまだ日本と比べるとそこまで不況感を感じないというか、国柄なのかも知れませんが余裕があるような感じがしました。サイトからの帰りの車の中でも古谷さんとアメリカでの生活や物価、税金の話、保険の話など現地に住んでいる日本人としての目から見たアメリカの話聞かせて頂きました。

【5日目】

コンコードより車で約1時間半程にある『レンサムビレッジプレミアムアウトレット』に連れて行ってもらいました。このアウトレットは170店舗が出店しており東アメリカにあるプレミアム・アウトレットの中では2番目の規模を誇るアウトレットモールだそうです。あまりの大きさに1日ではとても見きれないほどでした、また週末の土曜ということもありとても混雑していましたが、お土産などアメリカのショッピングを楽しむことが出来ました。その日の夜は他のホストファミリーの方々とボストン市内のシーフードレストランにて明日のお別れを前に美味しい食事と楽しいひと時を過ごしました。



【6日目】

コンコード最後の朝。あまりにもあっと言う間に過ぎた数日間。

正直6日間もホームステイだと長過ぎるのではないか、飽きるのではないのかとも思っていました。毎日がとても充実しており飽きるどころか、もの足りなささえ感じる朝でした。

そして、とても優しく我々2人に接してくれたコンコードの両親とも言えるジャックさんと

ナンシーさんとお別れの朝。

日本語で話したとしても、伝えきれない位の感謝の気持ちを伝えたかったのですが、自分の英語力では簡単な単語しか話すことが出来ず、語学力のなさをこの時くらい悔やんだことはありませんでした。

『Thank you very much. I never forget you』と英語で伝え、しっかりと握手をし『またいつか、本当にいつの日か必ず2人に会いコンコードに来たいです。もし日本に来ることがあれば、必ず七飯に寄ってくださいね』と日本語で話しましたが、気持ちは通じたようでした。『ジャックさん&ナンシーさん!!本当にありがとう!! あなた達と過ごした数日間は私の一生の宝物です。いつまでもお元気で!!』

【ボストン、ニューヨーク】

ボストン、ニューヨークの観光もまた、いつもテレビなどで見る歴史的な建造物やボストン美術館の絵画（ゴッホ、ルノアール!!）、自由の女神、等々見たいと思ってもなかなか見ることの出来ない場所や物ばかりで最高に感動しました。またニューヨークの5番街やブロードウェイの街の中をいろいろな人種の人達に混ざって歩いている自分がまるで、映画の世界に入り込んでいるようでとても不思議な感覚を覚え、刺激になりました。



【振り返って】

研修を終えてから1カ月半ほどになりますが、このレポートを作成している間も、あの日の風景や交わした言葉を鮮明に思い出しています。言葉や文化、習慣の違いに躊躇していたことが馬鹿らしく思われるほど、素晴らしい人達と出会い、貴重な経験をしました。あれほど自分を高めるために過ごすことのできた数日間は私の人生の中ではないと言ってもいいかもしれません。間違いなく視野も広がったことでしょう。それほど素晴らしい機会を与えていただいた七飯町には本当に感謝しております。これからは、この恩を返すために自分が学んできたこと、経験してきたこと、国際交流の意義を町民のみなさんに伝え、これからも続く七飯町とコンコードの交流に何らかの形でたずさわっていきたいと思います。関係者の皆様、本当にありがとうございました。